

**目的** 現代の若い女性は、衣生活財を自分で作ることは殆んどなく、市販のものを購入することによってまかなっている。そこで、若い女性が衣生活財を購入する際の選択要因の情報を得、衣生活財とこの選択要因との関係を知る目的で、調査ならびに解析を行い考察した。

**方法** 調査は昭和57年1月に実施した。被験者は女子大生で、成育地は約80%が関東でその他は全国に及んでおり、年齢は18～19才、総数197名である。解析対象の衣生活財は、日常着、下着、着物、靴、手袋、スポーツ着などであり、各財の保有状態、使用頻度、入手選択要因を調査した。解析は2つの側面から行った。衣生活財を主体に分析するものと、被験者を主体に分析するものである。これらのデータに対し、因子分析とクラスター分析を行い、選択要因の構造を明らかにし、衣生活財と被験者の分類を試みた。

**結果** 被験者が持っている衣生活財を選択要因によって分析すると、要因は4つのグループ(1. デザイン・価格, 2. サイズ・ブランド, 3. 機能, 4. 仕上り・材質)に分れる。それによって衣生活財を分類すると、6つの要因別グループに分けることができる。被験者を衣生活財の選択要因によって分析すると、要因は(1. デザイン 2. 価格 3. サイズ 4. 材質・機能)のグループに分れる。それによって被験者を6つのグループに分けることができる。先に分類された衣生活財6つのグループごとに、被験者を分析すると、どんな衣生活財についても、選択要因がサイズ、デザイン、価格それぞれに偏向する者はいるが、機能・材質に偏向を示す者はいない。被験者の成育地と衣生活財選択要因とは、深い関係はみられない。